

令和2年

目黒区教育委員会

第2回定例会議録

(令和2年1月14日開催)

第2回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和2年1月14日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	櫻井道雄
	教育委員会委員	後藤幸子
	教育委員会委員	笛尾敦夫
	教育委員会委員	松村眞理子

出席職員	教育次長	秋丸俊彦
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井司
	学校ICT課長	今村茂範
	学校運営課長	濱下正樹
	学校施設計画課長	鹿戸健太
	教育指導課長	竹花仁志
	教育支援課長	酒井宏
	統括指導主事	寺尾千英
	統括指導主事	片山順也
	生涯学習課長	千葉富美子
	八雲中央図書館長	増田武

書記	小野塚幸隆
	森高健二郎

(議事日程)

日程第 1	報告事項	令和 2 年度目黒区一般会計当初予算原案について
日程第 2	報告事項	令和元年度教育施策説明会（後期）の実施結果について
日程第 3	報告事項	いじめ問題重大事態発生時対応マニュアル（案）について
日程第 4	報告事項	冬季休業明けの幼児・児童・生徒の欠席状況について
日程第 5	報告事項	令和元年度小・中学校卒業式祝辞について
日程第 6	報告事項	令和 2 年成人の日のつどい実施結果について

(午前9時30分開会)

○教育長 令和2年第2回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員、欠席職員はおりません。署名委員は、櫻井委員です。

それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 令和2年度目黒区一般会計当初予算原案について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございませんか。

○委員 モデル校を1校設けて、パソコンを3クラスに1クラス程度で配置する検討を行っていますが、予算がつかなければ、そのモデル校の実施そのものができなくなるという認識でよろしいでしょうか。

○説明員 モデル校の実施についてお答えします。現在、各学校のパソコン教室に学習支援用としてパソコンを40台整備している状況でございます。国の示す最終目標としましては、1人1台のパソコン整備となっておりますが、最初の段階として、3クラスに1クラス程度のパソコン整備を行うことが求められています。

ですので、今回、モデル校を小・中学校でそれぞれ1校ずつ選定し、3クラスに1クラス程度のパソコン整備を行うための予算要求をしたところですが、昨年12月13日に文部科学省からGIGAスクール構想が提示され、これまでの目標に加え、新たに学校のネットワーク環境の改善の実施が求められることとなりました。これに伴いまして、国の補助金の額にも変更が生じるところですが、その詳細が不明であることから、現段階で当区の予算として適切な額を算定することが難しいため、当初予算への計上が見送られました。よって、予算がつきませんでしたので、モデル校の実施はできないということになります。

○教育長 その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

次に日程第2を議題とします。

(日程第2 令和元年度教育施策説明会(後期)の実施結果について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
○教育長 この件についてご質問等はございませんか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第3を議題とします。
- (日程第3 いじめ問題重大事態発生時対応マニュアル(案)について(報告事項))
- 説明員 (資料により説明)
○教育長 この件についてご質問等はございませんか。
○委員 項番2(3)の「生命等にかかる重大事態発生時における対応の修正」のアで、在籍児童等に聴き取り調査等を実施する際の留意点として、保護者の承諾を得てから実施することを加えたと説明されました。保護者が承諾をしてくださることを想定してマニュアルを記載されていますが、子どもが自殺をしたということを伏せてもらいたいなど、保護者が承諾をしない場合には、その後の聴き取り調査等はできなくなるのでしょうか。
- 説明員 委員のご指摘の点ですが、保護者の気持ちを尊重した上で調査を進めるため、修正を行ったものでございます。
- 被害児童・生徒が自殺した案件について、ほかの子どもには知らせたくないという保護者の意向がございましたら、その保護者の意向に沿って、丁寧に対応を行う必要があると考えてございます。
- 委員 保護者の気持ちを尊重し、丁寧に対応することは大事だと思いますが、いじめによって自殺が発生したということは、学校教育に関する重大な事案だと思いますので、学校としては、今後のいじめの発生を防止するため、学校教育のあり方を検討するために、何らかの調査が必要だと思います。一方、それと保護者の意向が衝突する場合の対応については、マニュアルに加えるべきだと思います。
- 説明員 委員のご指摘のとおり、調査の必要性と保護者の意向が一致しない状況は考えられます。事務局としては、まず、保護者にその旨を説明してご理解をいただけるよう努めますが、承諾をいただけない場合の対応についてもマニュアルに加えるよう検討ていきたいと思います。

- 委員 私は、教育現場においては、被害者も加害者も大切にしなければいけないと思います。被害者への対応はもちろん、加害者への対応についてもマニュアルに反映すべきだと思うのですが、いかがでしょうか。
- 説明員 委員のご指摘のとおり、被害者だけでなく、加害者に対しても教育的な配慮を行いながら対応していくことが、事務局としても大事だと考えてございます。
- 具体的には、34ページの項番2で、「いじめを行ったと思われる児童等と保護者への対応内容」という項目を、36ページの項番2で、「いじめを行った児童等とその保護者への対応内容」という項目を設けております。基本的にはこれらのマニュアルに沿って進めていくこととなります。
- 委員 項番2（3）の「生命等にかかわる重大事態発生時における対応の修正」のアで、「保護者の承諾を得て」と書いてありますが、これは被害児童等の保護者と加害児童等の保護者両者の承諾をとるということでしょうか。不明確なので、どちらの保護者が明記したほうがよいと思います。
- 亡くなられた方のご遺族である保護者が、調査を拒む場合も想定できますし、加害児童等の保護者も自分の子どもに調査が行われるときは、その調査を拒むこともあると思います。ですので、どちらの保護者が明記したほうがよいと思います。
- 説明員 これは、被害児童等の保護者、加害児童等の保護者、関係する学校の児童等の保護者に対しても承諾を得るということを意味しております。参考資料3を70ページにつけてございますが、調査の協力をするに当たっては、このような文面で、その学校の保護者全員に対して、調査協力の依頼を行い、保護者の協力を得ながら進めていくという形になります。
- 71ページには、その理解が得られたということを確認するために、承諾書をつけておりまして、学校が確認をできるようにしてございます。
- 委員 この記述だと対象者が明確ではないと思います。被害児童等の保護者にも加害児童等の保護者にも承諾を得るということを明確に記載していただきたいです。また、承諾書には、必要な情報が十分に記載されることになると思いますが、書面以外にも口頭での丁寧な説明も大事だと思いますので、ご検討よろしくお願ひします。

○説明員 よりわかりやすい記載にするとともに、関係者にきちんと口頭で説明を行う旨を加えるようマニュアルに盛り込んでいきたいと思います。

○委員 丁寧なマニュアルができたと思いますが、実際にいじめが発生した場合に、このマニュアルどおりに動けるのかが気になりました。

例えば、29ページの項番4に「地域への対応内容」とありますが、この中で、学校への協力依頼をする対象が、町会や住区の役員、民生・児童委員等に対し、可能な限り早い機会に行うということですが、当日の対応としては作業量が多いことが気になりました。

町会などの活動をしていくと、当日に連絡がつかない人が多いこともありますので、「可能な限り早い機会に行う。」という記述ではなく、いつまでに何をやるかを具体的に記載する必要があると思います。

それから、報道機関への対応についてですが、大変なことだと思います。学校周辺では、事件が起こると、報道機関が周辺の道路に車をとめて、張り込みます。そのような事態になったときに、地域住民等への対応も難しくなると思います。報道機関への対応の仕方にも様々なパターンがあると思いますので、もう少し具体的かつ詳細な記載をすべきだと思います。マニュアルに詳細に記載することは大変なことだと思いますが、ぜひ頑張っていただきたいと思います。これは要望です。

○委員 重大事態が生じると大変です。様々な意見が出てきて、当初想定していたとおりにはいかないことがあります。加害者が被害者になることもあるので、その人たちへの対応に苦慮することもありますし、全員の同意を得て物事を進めることが難しいという現実にも直面します。現実はパターン化できず、想定したとおりにはいかないので、マニュアルには柔軟性を持たせ、対応していくことが大事だと思います。また、その柔軟性を誰がコントロールするかについても大事なことですので、検討しておくべきだと思います。

○説明員 委員の皆様にご指摘いただいた点は、いずれも今後検討を加えていかなくてはいけない事項だと思っております。

実際、12月に訓練を行いましたが、改善点も多く出ましたので、訓練を通して、マニュアルをよりよいものにしていくことが

大切であると思っております。

12月の訓練においても、学校で近隣の方に情報提供が必要だと確認しております、どのように近隣の方に情報提供していくのかなどが課題として挙げられていました。そういったことも含めて、今後、マニュアルを具体的に整備していきたいと考えてございます。

○教育長

マニュアルは、常に改善していく必要があります。本日、各委員から様々なご指摘をいただきましたので、事務局は、必要な修正を行ってください。

○教育長

その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

次に日程第4を議題とします。

(日程第4 冬季休業明けの幼児・児童・生徒の欠席状況について(報告事項))

○説明員

(資料により説明)

○教育長

この件についてご質問等はございませんか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

次に日程第5を議題とします。

(日程第5 令和元年度小・中学校卒業式祝辞について(報告事項))

○説明員

(資料により説明)

○教育長

前回ご協議をいただいて、小・中学校それぞれ、題材例を2つまでに絞っていただきました。本日は、それを1つに決めていただきたいと思います。

前回と同様に、各委員に順番にご意見を伺うこととします。

○委員

はやぶさが日本人に感銘を与えたのは、満身創痍で地球に戻ってきたことが評価されたためです。無事地球に戻ってこられるかどうかがはやぶさ2の最終的な評価になると思いますので、現時点でこの題材を選ぶことには疑問があります。

それから、ラグビー・ワールドカップは、日本の文化に与えた影響が非常に大きいので、多くの人が題材として取り上げると思います。ただ、それだけ日本の文化に与えた影響は大きかったものですので、題材としてよいと思います。

それから、ノーベル化学賞のリチウム電池についてですが、世界中がこのリチウム電池で後の新しい時代を築いていくと思いますので、この題材を用いるのはよいと思います。ただ、日本の文化に影響を与えたものとしては、ラグビー・ワールドカップ以上のものはないと思いますが、どのような切り口とするかが難しいです。

○委員

「ONE TEAM」という言葉は、いたるところで聞くようになりましたので、日本に影響を強く与えたものだと思います。

はやぶさ2は、小学生に話しても、知らない子やわからない子がいるかもしれません、ラグビー・ワールドカップに関しては、小・中学生どちらにも知れ渡っているものだと思いますし、知っているので聞こうと思う子どもがでてくると思いました。

私は、文章には自然に「ONE TEAM」になったわけではないというところを入れてほしいです。それぞれ個々の働きかけがあって、「ONE TEAM」になろうとしたところが大事だと思います。自分から主体的に動かないと物事は成り立たないということを祝辞に入れてほしいです。

中学校に関しては、ノーベル化学賞を題材に、粘り強くやっていくことを強調することはよいと思いますが、毎年ノーベル賞の話をしていますし、かたい話題ですので、今年は小・中学校とともに、ラグビー・ワールドカップの祝辞としてもよいと思いました。ただ、それぞれどのような切り口とするかは、検討が必要です。

○委員

私も、はやぶさ2については知らない小学生もいると思います。

理科の授業の中で先生が紹介しているという前提があれば、興味を持つと思いますが、初めて聞くのであれば、何も伝わらないおそれがあります。ですので、はやぶさ2を題材とすることは、小学生には難しいという印象を受けました。

ラグビー・ワールドカップにつきましては、「ONE TEAM」という言葉が、今年の流行語大賞にノミネートされました、この言葉について正しく理解している小学生は少ないと思います。「第9回ラグビー・ワールドカップ日本代表の躍進」の②のところにも記載されているとおり、半数の選手が海外生まれですので、国籍が日本ではない人もいると思います。日本で長年プレーを続けている選手は、日本国籍でなくても日本チームに入れることは、面白いことだと思いますので、②の内容をもう少し工夫していただけるとよりよいものになると思います。

それから、③の「文化」という言葉についてですが、最近、テレビで選手たちが、ラグビーを「にわか」ではなく、「文化」にしたいと発言するのをよく見かけます。私もラグビーと文化とのかかわりは大きいと思いますので、この言葉は、子どもたちにも大きな印象を与えると思います。この「文化」という言葉を更に強調してもらえばうれしいです。以上が小学校についての意見です。

中学校につきましては、「ノーベル化学賞に至るまでの柔軟性と粘り強さ」の題材例がよいと思いますが、改めて拝見したところ、②に「10件中9件は失敗がある」と記載されています。これから高校に入ろうとしている生徒たちに、10件中9件の失敗という表現がどう受け止められるのか気になりました。

失敗しても研究を進めることの重要性について意識してもらうことはよいことだと思いますので、もう少しよい表現ができればよいと思いました。

ラグビー・ワールドカップにつきましては、選手たちが「ONE TEAM」になれた理由として、今まで経験したことがない練習を、皆で一緒にしたということを加えていただきたいです。

この経験は、部活をしても、普通の生活の中では経験することができないものだと思います。選手たちがそれを経験して、乗り越えてきたことをこの祝辞に盛り込めばうれしいです。

結論として、私は、小学校も中学校もラグビー・ワールドカップを題材とすることに賛成です。

○委員 小学校のはやぶさ2につきましては、目黒区の友好都市との関係があるので、取り入れたい題材だと思いましたが、はやぶさが戻ってきた将来のために、とっておくのもよいと思いました。

中学校のノーベル化学賞についても、生徒にとって教育的な見地から、よいテーマだと思いましたが、②の「10件中の9件の失敗」という表現が抽象的なので、失敗についてより具体的に記述したほうがよいと思いました。また、ノーベル賞は、日本人で受賞することが希少な時代もありましたが、最近は毎年、1人、2人受賞している現状もあり、題材として取り上げなくてもよいと思いました。

ラグビー・ワールドカップについては、「ONE TEAM」という言葉に訴えるものがあつてよいと思いましたが、私は、これまで日本のスポーツ界において、メジャーとはいえず、ファン

が少なかったスポーツの分野で、大勢の様々な国の選手たちが生活の全てをかけて頑張ってきたということに感銘を受けたので、その点を盛り込めたらよいと思いました。

○教育長

それぞれの題材例についてご意見をいただき、ありがとうございました。

お話を伺ったところでは、小学校、中学校とも、ラグビー・ワールドカップを題材とするということになるかと思いますけれども、他になにかご意見等はございますか。

○委員

選手の皆さんには、テレビにたくさん出演されていますので、俳句を学んだというエピソードや、鎧で日本文化を学んだというエピソードは、多くの子どもたちが知っています。ですので、あまり知られていない希少な情報があれば、子どもたちの興味を引けるのではないかと思います。難しいことですが、よろしくお願ひします。

○委員

「ONE TEAM」という言葉について、私の解釈としては、言わざるを得なかったものだと思います。専門職集団がそれぞれ手を結んで、一緒に仕事をするには、スローガンを掲げ団結する必要があります。

ラグビーの「ONE TEAM」も、結果として「ONE TEAM」ができたのであって、「ONE TEAM」と言わなければ結束ができなかつたのだと思います。それが成功したために、ここまで評価されたのだと思います。ですから、その点についてどう解釈するのかが重要だと思います。

○教育長

では、小学校、中学校とも、ラグビー・ワールドカップ日本代表を題材にいたします。

「ONE TEAM」という言葉ですけれども、これは、皆で仲よくといった浅い話ではなく、非常に多様な切り口が考えられる、とても深い題材だと思います。ですから、どういう切り口で祝辞を作成するのか、また、小学校、中学校ともに、同じ題材ですので、それぞれ、小学生、中学生の印象に残る表現となるよう、文章を推敲していただくようお願いいたします。

○教育長

その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

(日程第6 令和2年成人の日のつどい実施結果について (報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
この件についてご質問等はございませんか。
今年の出席率は、男性が少し増えて、女性が少し減っているのですが、男性・女性の変化は、経年的にはどのようになっているのでしょうか。
- 説明員 経年変化は大体同じで、前年の実績は括弧で記載のとおりでございます。その前の年でございますが、男性が554名、女性が487名です。その前の年では、男性が580名、女性が523名ということで、例年、男性のほうが多いです。
- 出席率につきましては、前年より今年は増加しておりますが、平成30年1月の出席率は49%で、その前の年は50%を超えており、ここ3年は50%を下回っているという実績でございます。
- 委員 今回の成人の日のつどいは、出席された成人の方が落ちついた様子で、静かに話を聞いていましたので、素晴らしい式典だったと思います。
- 先日、アンケートの実施結果について、昨年のアンケートの回収率が低いため、回収方法を変更したほうがよいのではないかと意見を述べました。今回、回収率が上がっていますが、何か方法を変更されたのでしょうか。
- また、アンケートではどのようなことを聞いているのでしょうか。
- 最後に、このアンケートは、次年度にどのように活用されているのでしょうか。
- 説明員 まず、アンケートの実施方法ですが、昨年度と同様でございます。新成人の方にアンケート用紙を渡したり、声かけ、聞き取りを行うなどの取組を積極的に行いました。ただ、式典終了後、会場が混雑しており、声をかけづらい状況でしたので、今後、より有効に回収できる方法を検討していきたいと思います。
- アンケートの内容でございますが、園児の合唱や式典、ケーキ・ドリンクサービス、写真撮影サービス等、それぞれの項目につきまして、Aがよかったです、Bが普通、Cがよくなかった、Dが参加していない、知らなかったと、4段階で丸を付けていただいております。また、アンケート用紙の下に自由記入欄を設けております。
- 最後に、このアンケートですが、事務局で次年度企画するとき

の参考にしているところでございます。

○委員

SNSが流行している時代ですので、アンケートもSNSで行えるようにできれば、アンケートの回収率もよくなるのではないかと思いますので、今後検討してください。これは要望です。

○説明員

ご意見ありがとうございます。新成人は荷物等があったり、着物を着ていますので、聞き取って、アンケートを回収するという形もとてございます。他にも回収率を向上させるために、工夫してまいりたいと思います。

○教育長

その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

○教育長

その他なにかございますか。

以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時59分閉会)